

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院市民モニター会議(第5回)		
事務局(担当課)	総合政策部 病院改革推進課 (内線2216)		
開催日時	令和2年12月17日(木) 10時00分～		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	加門会長・南野副会長・熊手委員・大村委員・森寺委員・高須賀委員	
	その他	指定管理者 市立川西病院 南 看護部長 畑中 総務部課長	
	事務局	総合政策部病院改革推進課清原課長・塩川課長・藤本	
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	当会議の意見交換などの内容を公にすることにより、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがあるため、傍聴を不可とする。		
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1)市立川西病院に関する意見交換について (2)その他 3. 閉会		
会議結果	別紙会議経過のとおり(要旨)		

審議経過

1. 開会

2. 議事

(1) 市立川西病院に関する意見交換について

ア. 市立川西病院の全般について

資料2「一日平均患者数の推移」資料3「患者数月別集計表」に沿って、指定管理者から説明

指定管理者： 一日平均患者数については、入院患者数は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、4月は113.4人と減少していたが、徐々に回復し、9月以降は令和元年度を上回っている。

外来患者数においても、4月は256.0人まで減少したが、8月には338.2人まで回復している。科別患者数の内訳を見ると、4月当初は、入院、外来共に、外科や緩和ケア外科の患者数が、著しく減少していたが、現在は、回復傾向にある。また、4月から常勤の耳鼻咽喉科医を2名採用し、入院が伴う治療が可能となったことから、順調に患者数が増加している。

指定管理者： 看護体制については、今年度も退職、採用を繰り返しながら、昨年度4月の看護職員141人と比較すると10人程の看護職員を増員している。看護師数が限られている状況でも、万全な看護が提供できるように2人の看護師で複数の患者を受け持つ看護方式であるPNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)等も導入して業務にあたっている。

また、地域貢献については、コロナ禍で活動の制約があったものの感染管理認定看護師が川西市の介護施設などから依頼を受け、講師として出向き、感染予防に関する講演を行っている。認知症看護認定看護師も講演活動を行っている。また、皮膚・排泄ケア認定看護師は、医師と一緒に患者の自宅まで訪問診療にいった際、褥瘡などの創傷管理を行っている。

委員： 現在の看護職員数は何人であるか。

事務局： 11月時点で、看護師、助産師、准看護師を含めた看護職員数は151人である。

委員： 認定看護師とは、どのような看護師であるか。

指定管理者： 大学院や大学等で、医学や特定の看護分野において、専門的な知識を学び、それぞれの資格の認定試験に合格をしている看護師である。

委員： 市立川西病院では、専門的な知識や高度なスキルを身に付けるための取り組みは行っているか。

指定管理者： 出来る限り市立川西病院で患者の受入れを行うためにも、認定資格を持った看護師を中心に、看護職員全体がスキルアップできるように、研修等

を実施している。

委員： 報道によると、市内の総合病院で新型コロナウイルス感染症によるクラスターが出て、診察や救急の受入れができていないと聞くと、その影響で患者数が増えているのか。

指定管理者： ご指摘の通り、患者数に関しては増加しているため、11月からは4階北病棟を再稼働し、病床数も確保しながら、受入れ体制の充実を図っている。

今まで、市内は3病院で急性期医療を担ってきたが、現在はこのような状況なので、協立病院と医療法人内連携という形をとりながら、出来る限り、市内で救急対応ができるように努力している。

委員： 発熱等、新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合は、まず、どこに連絡をすればいいのか。開業医の先生が対応困難な場合は、市立川西病院を受診してよいのか。

事務局： ファーストタッチで市立川西病院に問い合わせが集中すると、通常の診療への影響も考えられるため、まずは県の相談窓口、伊丹健康福祉事務所、地域の開業医の先生方へ電話で相談していただきたい。

指定管理者： 公立病院として、新型コロナウイルス感染症の疑いがある患者に対しても、感染対策を徹底し、然るべき対応を行っている。

委員： 昨年12月に開催した第3回市民モニター会議で、1病棟を運営するには20人～25人看護師を配置しなければならないとの説明があったが、看護職員数は10人前後しか増えていないが、病棟での必要人員は満たせているのか。

指定管理者： 看護師の必要数は患者数に応じて変動するため、病床数を調整しながら、看護が行き渡るようにバランスよく各病棟に看護師を配置しているので、対応できている。

イ. 外来患者及び入院患者アンケートの集計結果

資料4「外来患者アンケート」資料5「入院患者アンケート」に沿って、指定管理者から説明

指定管理者： 外来患者アンケートは令和2年10月22日に実施し、配布数300件に対し回収数は253件で、回収率は84.3%であった。

自由意見では、食堂や売店の営業状況など施設面の充実に関する要望や、職員に対するご意見が多く寄せられた。職員へはお褒めのお言葉とご指導のお言葉を多数頂戴している。

入院患者アンケートは令和2年10月1日～31日に実施し、配布数200件に

対し、回収数は117件で、回収率は58.5%であった。

自由意見では、病院食の充実に関する要望が多く寄せられ、外来同様、職員へのご意見が多く寄せられた。

入院、外来とも集計結果については、例年と大きな変化は無く、どの質問についても、概ね半数以上が「大変良い」「良い」の回答を頂いた。

今回のアンケート結果を院内で共有し、医療の質や患者サービスの向上に努めるとともに、患者様が安心して受診できる市立病院づくりに努めていく。

委員： 市立川西病院に入院した際、同じ部屋で複数診療科の患者が混在している事に困惑した経験があるので、もう少し分けできないものか。また、入浴の際、ベトナム人看護助手の方と言葉が通じず、入浴がし辛かったり、お風呂が水だった事があったので、患者とのコミュニケーションの取り方に改善が必要だと思う。

委員： 言語に関してはポケトーク（翻訳機）の導入も検討してはどうか。

指定管理者： 総室の部屋の区分については、性別、感染症の有無などへの配慮は行っているが、診療科ごとに同室することは、難しい。また、ベトナム人看護助手については、日本語教育をうけて訪日しているが、日本語の会話レベルに差があるのは事実である。市立川西病院の場合は、日本人の介護福祉士を教育係として配置しているが、細かいところまでチェックが行き届いていない様なので、改めて教育計画を見直ししていく。

（2）その他について

指定管理者： 10月から平日限定で院内オンライン面会を開始した。好評なため、土日祝や年末年始も拡大して運用していく予定である。

指定管理者： 患者アンケートで、職員に対して激励のお言葉を多数いただいたことに感謝している。患者様から頂いた激励のお言葉は、職員の専用通路に掲示するなどして、職員のモチベーション維持に大きく寄与しており、病院全体の士気の向上に繋がっている。この場を借りて、お礼を言いたい。

委員： 指導の言葉や激励の言葉があるという事は、それだけ市立川西病院に関心があるということ。良いことも悪いことも、受け止めることが大事だと思う。

まとめ： 引き続き、医療の質の向上と看護ケアの充実を図って欲しい。また、現在はコロナ禍で制限を受けることもあると思うが、地域とのつながりを大

事にして欲しい。その他、市立川西病院が頑張っていることをもっと工夫してPRして、市立川西病院の存在感を示して欲しい。

これから先、市立川西病院の設備、機器の更新などは最低限しか出来ない状況ではあると思うが、ある意味「現状維持」ができていけると言えるのは、努力をし続けているということであると思うので、継続してもらいたい。

本日の意見、提案で、改善可能なものは速やかに改善に取り組んでいただきたいと思う。

3. 閉会